スポーツボランティアプログラム

東京都障害者スポーツ大会「車椅子バスケットボール」報告

2019/01/20

東京都障害者スポーツ大会「車椅子バスケットボール競技」

1月20日（日）、武蔵野の森総合スポーツプラザ メインアリーナにて、東京都障害者スポーツ大会 団体競技（身体部門）「車椅子バスケットボール競技」が行われました。

本学からは、スポーツボランティアプログラムの3年目（リーダー）の学生が3人、2年目（サポーター）の学生が3人、1年目の学生が9人の計15人がボランティアとして参加し、テーブルオフィシャルや競技補助員として活動しました。

・競技について

車椅子バスケットボールは、一般のバスケットボールと大半のルールが共通しており、試合に出る選手の人数やゴールの高さも同じです。

しかし、車椅子バスケットボールでは、競技者が車椅子に乗ってプレーするため、いくつか特有のルールが適用されています。

この特有のルールの一つが、「持ち点」です。

選手とチームの持ち点

車椅子バスケットボールの選手は、一人ひとりが障害の程度により、1.0点から0.5点きざみで4.5点まで、持ち点でクラス分けされています。そして、常にコートに出ている5人の選手の持ち点の合計が14.0点以内でなくてはなりません。もちろん、選手交代があっても、常に14.0点以内のチーム編成が必要です。

（一般社団法人日本車いすバスケットボール連盟HPより引用）

「持ち点」により、多様な障がいのある選手が同時にプレーできることもこの競技の魅力の一つとなっています。

また、本大会では、男子チーム・女子チーム・男女混合チームが公平に試合を行えるよう持ち点について特別ルールが適用されていました。

・テーブルオフィシャル

「テーブルオフィシャル」とは、スコア管理、得点や反則の記録、時間計測等を行い、審判員の試合進行をサポートする役割です。バスケットボールの競技経験がある学生が担当し、その経験を生かして活動しました。

開会前には、床の表示に沿って白いテープを貼り、一からバスケットボールコートを作りました。

試合中は審判の動きや試合の動向を注視するため、常に気が抜けず、緊張した様子でしたが、他の担当者とコミュニケーションをとりながら試合の円滑な運営をサポートしていました。

・競技補助員

競技補助員となった学生は、「会場対応」「車椅子のタイヤ拭き」「プラカード」「受付」「誘導」「本部」といった各担当の活動に加え、一人一回は、試合中の「モッパー」を担当しました。

「モッパー」は、試合中の接触場面やインターバルの際に、コートに入ってモップ掛けを行う役割です。待機している際には、試合を目の前で観ることができるため、選手同士の攻防はもちろん、車椅子同士がぶつかる音やタイヤと床がこすれるにおいを直接感じることができます。モッパーを経験した学生は、「近くで観なければ分からないことがたくさんあった」と話していました。

また、役割によっては、選手や首都大生以外のボランティアの方々とお話しする機会があり、多くの気付きを得ることができたようです。

～参加学生の感想～

・「車椅子を使っている人たちから身体の不自由さについての不満を耳にすることは全くなく、プレー中や休憩中の様子がとても生き生きとしていて、エネルギーをもらった気がした。選手のプレーを間近で観ることができ、とても迫力があって楽しかった」

・「モッパーとして、試合を間近で観させてもらったが、車椅子がぶつかる音がよく聞こえて迫力を感じたり、試合中に選手が結構会話をしているという面白い発見ができたりした。最後に行った床に残ったタイヤの跡拭きはしんどかったが、そのような役割も大切だと思った。体験しないと分からないことが知れてよかった」

・「今回初めてテーブルオフィシャルをやることになって少し緊張した。普通のバスケと全然変わらず、ファウルトラブルが少ないので試合があまり止まらないなぁと思った。その他の試合では、試合を観ながら細かいルールや座った状態でシュートを打つことの難しさ、簡単な戦術等について、プログラムのメンバーや一緒にテーブルオフィシャルを担当した方、アリーナの外で軽食を売っていた方と話せて良かった。『ただ障がい者がバスケをしているのではなく、車椅子バスケというスポーツとして観てほしい』『もっと魅力を知ってほしい』と思った」

会場設営の様子

開会式でプラカードを持つ学生

試合中のテーブルオフィシャル

コートにモップ掛けをしているモッパー